



《恋の舞台袖》 10S キャンバスに油彩

大学を卒業したらどうする？
 ツウはちゃんと考えますけど、まったくノープランのまま学部の卒業式を迎えてしまいました。その頃は、大学院に進むよりも「社会を見てみたい」と思っていて、ヨガのインストラクターや携帯電話の販売の仕事をしたり…。でも、絵は何とか続けたいと思ってました。

さまざまなコンクールに出品して賞をいただいたり、それをきっかけにした出会いに恵まれたことが、現在につながっていると思います。本当に幸運です。

「描かれている女性と違うね」ってよく言われます。確かに私自身は地味でインドア派。運転免許を取っても「もしも死んだら」と思ってハンドルを握れない。それくらい臆病なのですが、脳内トリップはかなりエキサイティングです。

変身願望ではないのですが、絵の中の人物も自分だと思っています。それに、どんな人の心の中にも、いつのまにか抑えられてしまった「欲望」があるはず。生々しい魂の存在を受け止めながら生きてもいいんじゃないかな。ホンネとタタマエ。でも、みんながホンネだけで生きたら世の中どうなっちゃうんだろう…。そんなことを想像しながら、キャンバスに向かってます。



《インストール》 6S キャンバスに油彩



福島万里子



#2 Mariko Fukushima

絵だから表現できる“本当の自分”
 福島万里子

2012年に昭和会展で特別賞を受賞。14年の個展ではインパクトのある女性像で洋画界に新風をもたらした福島万里子さん。絵の登場人物と同じ肉食系女子かと思いきや…。

1984年生まれ。大学卒業後、さまざまなアルバイトを経験しながら数々のコンクールに挑戦。鬼才・佐々木豊（審査員）の目にとまり、昭和会展ほかで受賞を重ねる。武蔵野美術大学油絵学科出身。

<http://www.party-wa.com/mariko>

▶ 2015年1月・日本橋三越本店にて「三越美術特選会」3月20日～22日・アートフェア東京2015にて個展。東京国際フォーラム（日動画廊ブース）

イチオシ作家
 今年の100人